徳島大学　全学共通教育センター

週刊　学びのコミュニティー

第１号　平成 21 年 2 月 18 日発行

発刊に寄せて…　私たちの「地域社会人ボランティアを活用した教養教育」の取組が，文部科学省から高い評価を受け、平成２０年度文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」に採択されました。これは、社会の様々な分野で活躍し，大学教育に造詣の深い社会人のみなさんにご参加願い，学生・社会人・教員の三者で、「学びのコミュニティー」を形成し、教養教育の質の向上を図るとともに、その成果を社会に発信することにより，大学を中心とした知の循環型社会の構築をめざすものです。

そこで「学びのコミュニティー」の今後の活動などを広くお知らせし、ご意見・ご提言等をいただき、可能であればこれに参画いただきたいとの思いを込めて、週刊「学びのコミュニティー」をお届けさせていただく次第です。ご高覧願えれば幸甚です。（佐野全学共通教育センター長）

平成 21 年 2 月 11 日（水）建国記念日。サンシャイン徳島アネックスにおいて【第１回　徳島大学　地域に開かれた教養教育市民フォーラム】を開催しました。

プログラム

- **Ⅰ. 新しい学びを目指して**
- **Ⅱ. 学生・社会人・教員の学びのコミュニティー**
- **Ⅲ. パネリスト紹介**
- **Ⅳ. パネルディスカッション**
  - **1) 取り組みの意義**
  - **2) 地域に開かれた大学に向けて**
  - **3) 知の循環型社会の構築を目指して**
- **Ⅴ. 総合討論**
- **Ⅵ. 情報交換会**

午前中の企画会議、午後からのフォーラムに、大学関係者 30 名、社会人 19 名、学生 13 名、合わせて 62 名の方がご参加くださいました。企画会議の中では、互いの親睦を深めるため、二人一組で他己紹介を行い、総合科学部 2 年生の的場一将君の司会で和やかに交流を深めることができました。

午後からのフォーラムでは、川上副学長の挨拶の後、スティーブ先生による『学びのコミュニティー』の模擬授業が行われました。川上副学長は「これから求められるのはアーツ、それもリベラルなアーツを我々はしっかり意識していかなくてはいけないでしょう」と語り、教育と学習を取り囲む教員の位置づけをもう一度問い直す必要性を話されていました。また学生・社会人・教員が同じテーブルについて行う授業が初めてというスティーブ先生は「初心者マーク」を胸につけて、参加者全員を巻き込んだ授業に挑戦しました。「学び」と「学習」とは違うのか？という問いかけに、学生、社会人、教員とも活発な意見交換がありました。「最終的に答えは一つではないんです。参加者が自分で考え、発言したことに意味がある」とスティーブ先生は話され、ともに学び合うことの意味を改めて考えさせられました。

次に大橋先生の司会によるパネルディスカッションが行われました。実際に学生・社会人・教員の三者による授業に参加している社会人や学生の皆さんがパネリストとなって、まずそれぞれの体験、感想を発表しました。その後、大学での学び、社会で求められる人間像、生涯学習などについて参加者に発言を求め、さまざまな立場から熱の入った意見、提言が寄せられました。そしてこれらの発言を受けて述べられた学生の意見に、このパネルディスカッション自体が大学で行われる学びのひとつの在り方として、その意義を発信できたのではないかと思いました。（光永雅子）

～編集後記～

三寒四温と言われる通り、寒い日と暖かい日が交互にやって来る今日この頃。体調管理が難しい時期ですが、気づけば新しい芽が地面から顔を出し、花が咲いていい香りを漂わせています。春はもうすぐそこ･･･新しい気持ちで学ぶのにふさわしい季節がやって来ます。私たちの目指す“真の学び”が大学に、そして社会に根差すのは簡単ではないかもしれません。でも、いつか学びの芽が花を咲かせ、実を結ぶよう、まずはひとつひとつ地道に種まきから始めたいと思います。みなさんも学びについて改めて考えてみてはいかがですか？

これから、毎週水曜日の発行を目指して参ります。少しずつ発信しながら、発展させていけたらと思っています。お気軽にご意見、ご感想をお寄せ頂けたら幸いです。（境）